長嶋歩さん

Nagashima Ayumi（接咀）

高齢者リハビリについて学び、将来この町のため貢献したい　長嶋歩

川根を離れてもうすぐ2年。私は今、理学療法士になるため大学で勉強しています。2年になった今、専門的な科目が増え、興味深い反面、難しい内容に戸惑うことも増えました。また部活動では部員をまとめたり、一人暮らしで慣れないことも多かったりと忙しい日々を送っています。

そんな生活の中で、助け合うことや人とのつながりの大切さを改めて感じています。一人暮らしを始めたばかりの頃は、見知らぬ土地で大きな孤独を感じていました。部屋には自分以外に人の声はなく、一言も言葉を発しない日もありました。今までの生活では考えられないことでした。

家にはいつも家族がいて、外を歩けば笑いかけてくれる町の人がいる。そんな川根本町をとても懐かしく思ったのです。今まで、人の温かさを意識したことはありませんでしたが、古里を離れてみて、とても痛感させられました。

この地域の素晴らしさは「人々がとても温かいこと」。今思えば、子どもの頃から多くの人に見守られながら育ってきたように思います。他人との接し方、人に対する優しさは、この町の人たちから学びました。そのおかげで今は多くの友人ができ、日々の生活や勉強で支え合いながら楽しく毎日を送ることができています。

講義では人の身体構造や運動のほか、生活環境についても学んでいます。患者さんが元の生活に戻るためには、家族や日頃の生活の環境が大きく影響するからです。そういった面から川根本町を考えたとき、少し不安が生まれました。今この町は超高齢化社会を迎え、高齢者だけの世帯も増えました。介護は精神的にも肉体的にも負担がかかるものです。この町にとって大きな課題だと思います。だから私は今、大学で高齢者リハビリについて学び、将来、この町のために貢献できたらと思っています。

まだまだ自立できたと胸を張って言うことはできません。2年後、大学を卒業し、社会に出てからが本当の自立です。いつ戻ってこられるか分かりませんが、古里川根本町をいつも思い、これからも成長していきたいと思っています。

この町の素晴らしさは「人々の　温かさ」です。

新成人89人を代表してステージに上がった２人は、見守る仲間たちや保護者らに向かって、しっかりと前を見つめ、力強く決意を語った。

英語教員として、この町で子どもを育てる一員になりたい　森下信弘

私は今、静岡市の常葉学園大学で小学校の頃から学んでいる英語の勉強を続けています。大学では高校までとは違い、より専門的な英語の内面的な部分を学んでいます。将来、英語の教員を目指している私にとって、これらをマスターするのは大変なことではありますが、でも新しいことを学ぶ毎日は、とても充実しています。

私の目標は、英語の教員免許をとり、英語の教員としてまた川根本町に戻ってくることです。そしてこの町で、子どもを育てていく一員になりたいと思っています。

私は昨年4月から教職課程の履修が認められ、将来教員になるための第一歩を踏み出すことができました。しかしこれは、まだ最初の一歩。大学を卒業しても教員になることを保証されたわけではありません。その先に待ち受ける教員採用試験を目指すため、英語の勉強だけではなく、子どもの成長に応じた指導法や学校教育に関する法律などを学び、ボランティア活動、介護体験などさまざまな経験を積み重ねながら教員を目指していきたいと思っています。

自分はなぜ、この険しい道を選んだのか。この道はこれで正しいのか。時々考えます。そのたびに私は、今しかできないことを精いっぱいやり抜くことが、これからの自分の人生を「納得できるもの」にしていくため最も大切なことだという答えにたどり着きます。

何より大切なのは「現場で子どもたちを指導していきたい、教育に携わっていきたい」という自分自身の使命感。中学の頃から、この目標は変わらず持ち続けています。

大学では、意識の変化や新しい発見に何度も出合いました。残り半分となった大学生活。これからどんな出合いが待ち受けているか今から楽しみです。

いつも精神的、経済的に支えてくれる家族、一緒に勉強や部活などを頑張ってきた仲間、そして私に英語を学ぶ楽しさを教えてくれた恩師に「ありがとう」の言葉を送ります。これからも待ち受けているであろう試練に立ち向かい、壁を乗り越え、自分の目標へと向かっていきます。

森下信弘さん

Morishita Nobuhiro（久野脇）